



日高ロータリークラブ WEEKLY

2023-2024 R.Iテーマ
世界に希望を生み出そう

THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日	毎週火曜日	時間	第1・3週 18:00~19:00	第2・4週 12:30~13:30
例会場	日高市商工会	住所	〒350-1206 日高市南平沢1083 日高市商工会館内	
事務所	同上	TEL. FAX	042 (985) 3355	
会長	清水佳代子	幹事	和田貴弘	会報委員長 上野宗久

第1854回例会 2023年9月5日(火)

2023年9月12日発行 第1666号

本日のお客様 関根 歩様(社会福祉法人同仁学院理事)

会長の時間 清水佳代子会長

8月30日、ガバナー公式訪問(飯能・日高RC合同)がヘリテイジ飯能にて無事開催されました。多くの会員皆様に御出席頂き、誠に有難うございました。穏やかな雰囲気の中で盛大に開催されましたことに、高丹ガバナーも大変喜ばれておりました。クラブ協議会にて、五大奉仕委員長、副委員長には発表をして頂き有難うございました。特に谷野SAAには、飯能クラブ様との事前打ち合わせ、当日の私からの無茶ぶり(笑)に見事に対応して頂きましたこと、大変感謝しております。また、当日お忙しい中でカメラを用意して頂いた武藤会員にも御礼を述べさせて頂きます。高丹ガバナーは、飯能・日高クラブのように信頼関係をもち友好を続けているクラブは見たことがないとおっしゃっていました。「親子クラブだからではないですか?」とお伝えしたところ、「ケンかはしないだろうけど、こんなに仲良くしているクラブ同士は見たことがない!」と感心されておりました。これもクラブ創立以来、歴代の会員皆様が繋いで来て下さった大切なバトンであると思ひ、改めて感謝いたしました。今月は、基本的教育と識字率向上月間であります。読み書きのできない15歳以上の人の数は、世界に約7億7500万人いるといわれております。これは全世界の成人の17%にあたります。しかも、学校に通っていない子供は世界に6700万人いるといわれております。地域社会が、自力で学校を支え教育における性差別を減らし、成人の識字率を高められるよう支援することが、私達ロータリアンの目標の1つであり、実際に支援を続けている分野であります。それには、皆様から頂いております年会費も使用されていることを覚えておいて頂きたいと考えます。本日は、同仁学院の関根歩理事様に卓話をいただきます。長年子どもたちの為に御尽力されていらっしゃることに敬意を表し、少しでも何かに役立てていただきたく、チャリティゴルフ大会の際、皆様から頂いた浄財を助成させて頂いてあります。卓話、大変楽しみにしております。

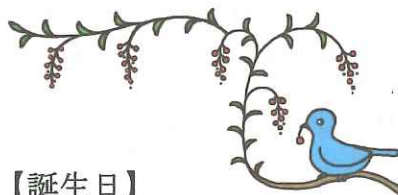


幹事報告 和田貴弘幹事

地区事務所より

・9月ロータリーレートのお知らせ 1\$ = 146円

結婚誕生祝 李 濬姫親睦委員長



【誕生日】
鈴木敏藏さん

【結婚記念日】
白井 威さん



卓話 関根 歩様(社会福祉法人同仁学院理事)

改めて、貴団体が毎年開催されております『チャリティゴルフ大会』の際、当学院に多大なる御寄附を頂戴しておりますことに御礼申し上げます。なかなか御礼を直接お伝えする機会が無く、失礼致しました。当学院の子どもたちの為に、有効活用させて頂いております。本日は、私共の学院のあらまし、児童養護施設とはどのような役割を果たしているのかをご説明させていただきます。
～社会福祉法人同仁学院の歩み 大切な役割～

昭和 20 年、終戦直後の混乱による戦災孤児を救うため、祖父母により設立されたのが始まりでした。昭和 24 年養護施設として認可され、初代院長に祖父(関根幸一郎氏)が就任致しました。定員は 50 名程であったそうです。昭和 26 年になるとジョンソン基地(現入間基地)米軍人による援助が始まり、宮内庁より事業奨励金(御下賜金)も拝受いたしました。昭和 28 年、同仁学院が社会福祉法人として認可され、初代理事長に祖父関根幸一郎氏が就任致しました。その後日高幼稚園(預かり保育)を、高麗川保育所が開設されるまでの間、同仁学院にて展開しておりました。この中を通しておられたという方もいらっしゃるかもしれませんが…ちなみに谷ヶ崎日高市長は通所されていたそうです。その後は児童養護施設をメイン事業としておりましたが、平成 13 年埼玉県からの依頼を受け、児童家庭支援センター『シャローム』を設立、認可を受けました。令和元年に入り、乳児院『さまりあ』の認可を受け、開所致しました。こちらは『あかちゃん』を対象とした施設になります。児童養護施設は、一番幼くてほしい 2 歳前後のお子さんが通所するのですが、それ以前の歳のお子様が入所する施設になります。今現在、このような事業形態で運営しております。『児童家庭支援センター』(シャローム)ですが、今のところ相談員 2 名と心理士 1 人の計 3 人体制としております。しかし、ここ数年で大変な需要を抱える事業となりました。この中で、高麗川小学校、中学校に通われていた方は「特別支援級って何?」となるかもしれません。私たちの年代(世代)は、学年数も多く子どもの数も多かったかとおもいます。あんなに子どもがたくさんいたのに…私自身、特別支援級に通っているという子どもは全校で数名だった記憶であります。しかし現代は違います…。接してみても全く普通なのに、特別支援級に通っているというお子さんが結構いらっしゃいます。見た目では全く(障害があるなどと)判断することが出来ません。当然、クラス数も増えております。発達障害と位置付けられた『ADHD』とか『自閉症スペクトラム』と言いますが、そういった発達障害を持っている子どもがここ数年急激に増えている気が致します。そしてそういった特徴を持った子どもは、クラスの中で問題児(授業中騒いだり、人に手を出してしまう)として扱われ、トラブルメーカーになってしまうのです。発達障害とは、生まれつきの脳の障害のために言葉の発達が遅い、対人関係をうまく築くことができない、特定分野の勉強が極端に苦手、落ち着きがない、集団生活が苦手、といった症状が現れる精神障害の総称であり、あくまで親の育て方など後天的なものではないということでもあります。しかし、小さい頃から親が不適切な対応をくり返していると、発達障害に非常によく似た症状が起こることもあるそうです。親自身(大人たち)が、発達障害に対して正しい知識を持ち合わせていなかったということがほとんどと言われております。子ども自身が悪い訳ではないのです。やはり家族をはじめ、周囲の正しい理解と関わり方が大切なのです。当学院に於いても、そういったお子さんに関わるニーズが増えているのが現状です。発達障害と診断された子どもとの関わりというのは、専門性が高く難しいと言われてしまいます。そういった事情で、自動家庭支援センター(シャローム)という相談機関が各方面から求められ、忙しい部門になってしまうのです。最後になりますが、『児童養護施設』とは、児童福祉法第 41 条により「保護者のいない児童(中略)、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする」施設です。私たちは、今もこれからもお預かりしている大切な子どもたちが幸せに、自立した人生を送れる為に尽力致します。今後とも、御理解御協力を心よりお願い申し上げます。



出席報告	9月5日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	8/22 修正率
	夜間	20	12	2	8	61.1%	66.6%

ニコニコボックス報告 12名 合計金額 14,000円 累計金額 78,000円